

## ○ふじしだトほんぐうしだ

牧野 富太郎

羊齒<sup>しだ</sup>ノ一種ニふじしだ(學名<sup>ハ</sup> Monachosorum Maximowiczii Hay.)ト云フ者ガアル又ほんぐうしだ(學名<sup>ハ</sup> Asplenium oligophlebium Bak.)ト稱スル者ガアル此ほんぐうしだノ名ハ何ニ基ヅイテ名ケタカト云フト是レハ紀州<sup>ホンクウ</sup>ノ本宮<sup>ホンミヤウ</sup>デハナク尾張<sup>ホンケウ</sup>ノ本宮山カラノ名デアル又ふじしだノ名モ駿河ノ富士山ヨリ出タノデハナク同ジク尾張<sup>ホンケウ</sup>ノ富士山カラデアル私ハ此尾張<sup>ホンケウ</sup>ノ二ツノ山ヘハ未ダ曾テ行イタコトハナイガ然シ分布ノ上カラ言ツテモ此二羊齒ガ此等ノ山ニ産スルコトハ蓋シ必然ナコトデアラウト思フ尾張<sup>ホンケウ</sup>ノ名古屋ハ往時ハ本草學ノ熾シナ處デ斯道ノ學者ガ澤山居ッタノデアアルカラ當時是等ノ學者ニヨツテ右ノ羊齒ガ採集セラレ乃チ上ノ様ナ名ガ付ケラレタモノデアアル此兩山ハ尾張<sup>ホンケウ</sup>ノ北方ニ在テ丹羽郡ニ屬シ殆ンド相並ンダ山デアアル即チ本宮山ハ富士山ト隣リ中間タマ一條ノ里道デ相隔ツテ居ルニ過ギナイ尾張名所圖會(後編)卷ノ六ニ據レバ『本宮山<sup>大縣神社のうしろ社より東北にありて眞</sup>神山眞靈山ニ宮山ともいふニノ宮の本宮をいつき祭るゆ當山は本州第一の高峯にして是を遠望する時は形富嶽の如し故に俗呼んで大富士と稱す』ト記シテアル又同書ニ『尾張富士<sup>富士村にあり本宮山に對し</sup>て俗に小富士ともいへり孤峯最高く遠くは駿河の土峯<sup>かきやう</sup>を望み近くは入鹿の大池ヲ見下し尾三濃信の連山一眸<sup>はう</sup>につきて風光無双の佳境なり凡擬富士<sup>ぎふじ</sup>は諸國にありといへども皆其形によりて名付たるを此尾張富士のみは左にあらざるむかし近江の土を駿河に運びて湖<sup>みづうみ</sup>と富士山とを造り賜ひし時擔夫<sup>たんぷ</sup>の神此地にて一簣<sup>き</sup>を覆<sup>おほ</sup>ひしが則此山となりしよしい傳へたれば彼駿河の山と同じ土石なりとぞ』ト出テ居ル

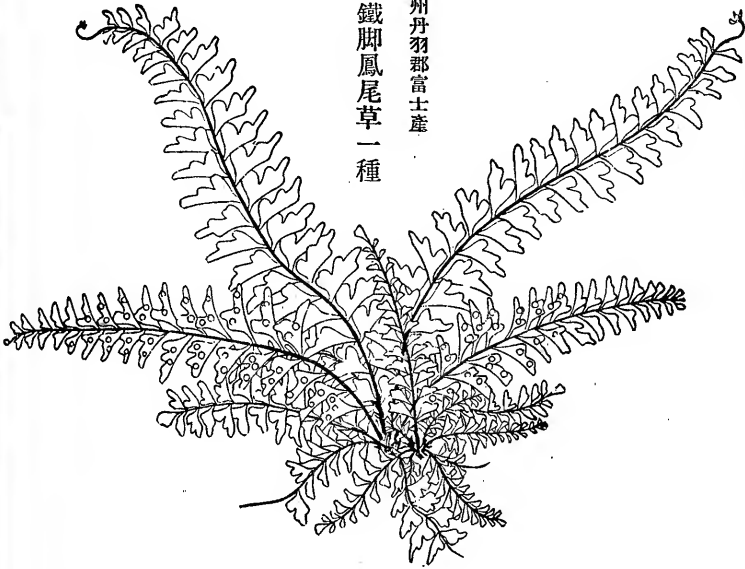
先輩<sup>せんぱい</sup>ノほんぐうしだト呼ビ來リタル前述ノ一羊齒ハ今ヨリ八十三年前ノ天保六年三月ニ尾張名古屋ノ嘗百社デ出版シタ『乙本草會物品目錄』ニ『鐵脚鳳尾草一種』トシテ其圖ガ出テ居ル此レハ當時同市ノ本草家ナル絲條園大河内存眞氏ノ出品デアアル今參考ノ爲メニ其圖ヲ次頁ニ轉寫シタ此羊齒ハ前述尾張ノ富士山ニモ亦産スルト見え

ふじしだトほんぐうしだ

ふじしだトほんぐうしだ

本州丹羽郡富士産

鐵脚鳳尾草一種



テ此『本草會物品目錄』ノモノハ『本州(編者曰ク)丹羽郡富士産』ト肩書ガシテアル『眞影本草』ニモ此羊齒ノ圖ガ印セラレテアリ又田中芳男氏編輯ノ『羊齒分科名彙』ニモほんぐうしだノ名ヲ出シ名下ニ『羊齒目録曰尾州二ノ宮本宮山産』ト註シ又併セテ『葉先ヨリ分根ス』ト記シテアル

此ノ如ク先輩ノ稱呼シ來レルほんぐうしだハ今日吾人ノ唱フルかみがもしだ、一名ひめぬりとらのを、一名ひめぢせんしだ即チ *Asplenium oligophlebium* BAKER. (= *A. Myosii* MAKINO.) テアル此ノ様ニほんぐうしだノ名ハ原トハ此羊齒ニ名ケタモノデアッタガ明治ノ初年頃ニ誰レガ間違ヘシカ此名ヲシテ全ク別屬ニ屬スル一羊齒 *Lindsaya cultrata* Sw. ニ轉嫁セシメタノデアル其レ故今日デハ吾人ハ此誤リヲ襲イデ此學名ノ品ヲほんぐうしだト唱ヘテ敢テ怪マズニ居ル様ニナツテ居ルガ今此ニ私ハ之ヲ正ニ反サンガ爲メニ此ほんぐうしだナル名稱||即チ本宮山ニ採リ且同山ノ名ニ基キテ命名シタ歴史アル此名稱||ヲ右ノ *L. cultrata* Sw. ヨリ取リ上ゲテ之ヲ原トノ植物即チ今日謂フ所ノかみがもし

だニ返上スル事ニシタ扱ソウスルト今日謂フほんぐうしだニ其和名ガ亡クナツテ仕舞フカラ私ハ其代リニにせ  
ほんぐうしだノ新名ヲ新ニ *L. cultrata* Sw. ニ與フル事トシタ其羊齒ハ即チ次ノ様ナ形ヲシタ者デア  
ル



にせほんぐうしだ(新補)  
所謂ほんぐうしだ

*Lindsaya cultrata* Sw.

かみかもしだ即チ本來ノほんぐうしだノ學名ガ確ニ *Asplenium oligophlebium* Baker. デアルコトハ曾テ武田久  
吉君ノ厚意デ能ク明カナツタ其レハ此學名ニ伴フタ原記載文ガ西曆一千八百八十年英國出版ノ園藝雜誌 *The*  
*Gardeners' Chronicle* ニ載ツテ居レドモ生憎此部ガ日本ニ無クテ見ラレナイノデ止ヲ得ズ當時英國ニ居ラレタ同  
君ヲ煩ハシテ其記載文ヲ寫シテ送ツテ貰ツタ且ツ同君ハ親切ニモ Baker 氏ノ命名セル原標品ヲキウ植物園ノ標  
品彙中デ檢シテ呉レタ爲メ此學名ノ者ガ愈かみかもしだデアル事ガ始テ突キ止メラレタ、日本デハ毎度此様ニ  
原記載ノ載ツテ居ル書物ガ備ハツテ居ナイガ爲ニ時々吾人ハ大困リヲヤルンデアアル、アノ書物ガアレバ此植物  
ノ解決ガツクト思フトサー後トモ先モ考ヘナクナリエー儘ヨト思ツテ端書一本望ミノ書物ヲ獨逸ナドヨリ取寄  
セタハヨカッタガ代價ヲ拂フ場合ニ大マゴツキニマゴツイテ時ニハ金ガ無イノニ書物ヲ買フトハ怪シカラヌト  
私ノ勤メテ居ル大學ノ總長カラ叱ラレタコトナドモアツタガ書物ガアルト分ラヌ植物ガ能ク分ルノデ本當ニ愉  
快デタマラナイ此分ルト云フコトガ自分ノ爲メデナク學問ノ爲メデアアルコト位ハ世人ハ氣ヲカシテ呉レネバ  
ナラナイ借金マデシテ學問ノ爲ニ働テ居リナガラ人ニ惡ク言レテハ全ク間尺ニ合ハナイ

ふじしだトほんぐうしだ

## 斷枝片葉 (其七)

ふじしだハ尾張藩ノ人、舍人清原重巨ノ著ナル『草木性譜』地ノ卷ニ出テ居ル又『重修本草綱目啓蒙』卷ノ十三下ニモ出テ居ル然シ共ニふじガふぢニナツテ居ルガ此ぢハビデナクテハナラナインシテ其『草木性譜』ノ文ハ『ふぢしだ漢名未詳深山に生ず其葉莖長く小葉繁密綠色冬を経て凋まず夏中葉末の地に著く者根を生じ分種す鐵脚鳳尾草の類なり』デアル又『眞影本草』ニ其圖ガ載ツテ居ル又田中芳男氏ノ『羊齒分科名彙』ニモ其名ガ出テ居リ名傍ニ『尾州丹羽郡富士産』ト記シテアル此羊齒ノ學名ハ始メ *Polypodium Maximowiczii* Baker. デアッタガ次ニ *Ptilopteris Maximowiczii* HANCE. トナリ次ニ *Phegopteris Maximowiczii* CHRIST. トナリ次ニ *Polystichum Maximowiczii* DIETS. トナリ最後ニ *Monachosorum Maximowiczii* HAYATA. トナッタノデアル

## ○斷枝片葉 (其七)

牧野 富 太 郎

## ●さんしきすみれノ和名ハ何時誰レガ名ケシ乎

三色すみれハ *Viola tricolor* L. ヲ直譯シタモノデアル此名

ハ何時頃誰レガ拵ヘシカト云フニ是レハ伊藤謙氏イヱノケンガ製シタ名デ明治七年ニ文部省デ出版シタ同氏譯述ノ「植學略解」ニ出テ居ル此書ハ ELIZA A. YOUNG 氏著 *The First Book of Botany* ヲ抄譯シタモノデアル、此伊藤謙氏ハ伊藤圭介先生ノ令息デ明治十二年ニ尙歲ガ若クテ病歿セラレタガ其名ハ長ヘニ我邦植物ノ學名トナツテ遺ツテ居ルモノガアル即チ *Carex Idzuroei* FRANCH. ET SAV. (うすすげ) ノ如キ又 *Saxifraga Merkiti* FISCH. var. *Idzuroei* ENGL. II *S. Idzuroei* FRANCH. ET SAV. (くさすげ) ノ如キハ是デアル同氏ニハ又「藥品名彙」ト題スル著書ガアツテ明治六年初版、同十六年ニ其増訂版ガ公ニナッタ此増訂版ハ同氏ノ死後ニ刊行セラレタ

●新種はまかきらん 海邊ノ砂地ニ一種ノかきらんガアル新和名ヲはまかきらんと名ケ又新學名ヲ *Epipactis Sayekiana* MAKINO. (sp. nov.) ト定メタ其記載文ハ不日本誌上ニ於テ見ユルノデアル